「私の地元応援募金」

明治安田より寄附

明治安田生命保険相互会社郡山支社坂下営業所から町に782，598円が寄附されました。明治安田生命保険相互会社では、社会貢献活動「私の地元応援募金」を実施しています。従業員から集まった募金に同社からの寄付金も合わせたもので、町へは8回目の寄附となりました。

町と明治安田生命保険相互会社は健康に関する連携協定を締結しており、健康チェックイベントや集会施設での健康増進・介護等に関する定期講座を実施しています。いただいた寄附は有効に活用します。ありがとうございました。



▲来庁された小菅所長（左）と社員の皆さん

企業版ふるさと納税

ハイパークリエーション東京より寄附

株式会社ハイパークリエーション東京（本社：東京都）から町に50万円の寄附をいただき、感謝状贈呈式を9月28日に町役場で行いました。渡邊隆代表取締役は「鉄道ファンで高校生のときに、只見線に乗って訪れた。当時見た景色が、今でも山里の原風景として心に刻まれている。只見線がつないでくれたご縁に感謝したい」と挨拶しました。いただいた寄附金は深沢温泉を中心とした地域づくりを進める「深沢プロジェクト」に活用します。



▲渡邊代表取締役（右から2人目）に感謝状が贈呈されました。右端は政策推進アドバイザーの利重和彦氏

ここから始まる未来へのしんか

りんどうサミットin福島

「第4回りんどうサミットin福島」が9月29日、只見町と南会津町で開催されました。南会津郡内のリンドウ生産者をはじめ、全国から約130人の生産者や関係者が出席し、栽培技術の向上や今後の産地振興に向け、意見交換が行われました。

当日は栽培ほ場の視察が行われ、生産者が日々の管理を説明しました。その後、季の郷湯ら里でサミットが行われ、南会津花き園芸組合の星和榮組合長が全国の生産者に向け、災害の経験や次世代への継承について話しました。目黒広信副組合長が南会津郡の生産の歩みを紹介しました。



▲地元生産者を代表して挨拶した星和榮組合長

一日も早い暫定開通に向け

国道289号建設期成同盟会が要望活動

国道289号建設期成同盟会は10月6日に福島県庁を訪問し、県の佐藤副知事、矢澤土木部長に要望書を提出しました。只見町から目黒副町長、佐藤議会議長が出席し、三条市の滝沢市長や三条市議会議長、ほか関係者が同席しました。

要望活動では、平石山トンネル（仮称）の一日も早い工事完了による全線開通や、暫定開通期間中における冬期間通行止めの柔軟な対応などを要望しました。出席者は八十里越公式ポロシャツを着用して要望活動を行いました。



▲佐藤副知事（中央左）に要望書を手渡しました

安全・安心な生活確保のため
県道小林・舘の川線改良促進期成同盟会が要望活動

県道小林・舘の川線改良促進期成同盟会は、10月9日に県南会津建設事務所や県庁、県議会を訪問し、県道小林・舘の川線の整備促進についての要望書を提出しました。

同県道は伊南川沿線の集落を結ぶ重要な生活路線であり、国道289号の代替性を持つ路線であるとともに、災害時には迂回路として役割を果たしてきました。要望活動では、熊倉～荒島間の冬期交通確保のため早期の防雪対策工事に着手すること、落石の恐れがあり幅員が狭い小林～亀岡間の未改良区間の整備促進を要望しました。



▲矢澤土木部長（中央）に要望書を手渡しました

一丸となり達成
死亡事故ゼロ1000日

10月12日午前0時に交通死亡事故ゼロが1000日となり、14日に町役場で只見町交通安全対策協議会への表彰伝達式が行われました。

福島県南会津地方交通対策協議会長の佐藤隆広県南会津地方振興局長が渡部町長に表彰状を手渡しました。佐藤敬南会津警察署長が祝辞を述べました。渡部町長は「県や警察、交通安全対策協議会、除雪に取り組まれる関係者、町民の日々の努力の賜物。国道289号暫定開通で交通量の増加が見込まれる。2000日、3000日と達成できるよう引き続き努力していく」と挨拶しました。



▲表彰状を持つ渡部町長（前列中央）

台湾とのご縁が形に
台南市北門区が来町

今年7月に覚書を締結した台湾の台南市北門区の区役所職員、学校長、小中学生らが10月15日に来町し、只見公民館で歓迎セレモニーが行われました。目黒副町長は「今回を節目に末永く交流し、友情を深めてまいりたい」と歓迎の言葉を述べました。北門区役所の陳嘉鴻主任秘書は「各分野で互いを深め、友好関係を発展させたい」と挨拶しました。セレモニーでは町の特産品を紹介し、互いの名産品を交換して交流しました。

セレモニー後、北門区の皆さんは只見小への訪問交流、マトンの焼肉、田子倉湖の遊覧など満喫されました。



▲北門区の皆さんから熱い気持ちを感じました

令和8年度緑化功労者
三瓶庄介さんが表彰

第73回南会津地方植樹祭における緑化功労者表彰に際し、深沢木工の三瓶庄介さんが表彰され、10月20日、工房にて表彰状が授与されました。

三瓶さんは伝統的なロクロ引きの技術を引き継ぐ数少ない木工職人のひとりです。木地師として50年以上にわたり、地域材を活用した木製品の製作に従事し、森林資源の循環利用の推進に寄与されました。森林と人とのつながりや心豊かな生活の実現に貢献された功績を称え、この度、緑化功労者として表彰されました。三瓶さんのつくる木皿は只見町伝承産品に登録されています。

三瓶さんは「16歳で木工の仕事を始めた。機械を揃え、道具や工房は自分の手で作った。まだたくさんの材がある。ここを継いでくれる人がいるといいんだがな」と話しました。


▲南会津産スギの木製賞状を持つ三瓶さん

第二期 只見ユネスコエコパーク管理運営計画が始動します

只見ユネスコエコパークの今後１０年間の管理や運営の方向性を定めた「第二期只見ユネスコエコパーク管理運営計画書」が令和８年（２０２６）８月４日に策定されました。

この計画書は、只見ユネスコエコパークが登録された平成２６年（２０１４）から令和６年（２０２４）までの１０年間を第一期とし、さまざまな活動から得られた経験や教訓を踏まえ、次の第二期において適切な管理運営を行うための基本指針を示したものです。令和７年（２０２５）早春より只見ユネスコエコパーク推進協議会（以下、推進協議会）が検討を始め、只見ユネスコエコパーク支援委員会での討議、令和８年（２０２６）４月から５月にかけて広く町民より意見を募集（パブリックコメント）し、８月４日に開催された推進協議会での協議を経て承認されました。内容を一部紹介します。

活動理念と目的・管理運営の基本方針

「豪雪に育まれた自然と生活・文化を守り、活かし、人と自然とが共生する物心両面で豊かな地域社会を創造する」

只見ユネスコエコパークの豊かな自然環境を保護・保全するとともに、持続可能な利活用を通じ、地域の伝統、文化、産業を継承し、地域の社会経済的な発展を目指し、“人と自然とが共生するモデル地域”として国内外に貢献することを目的として活動します。

この目的を達成するべく、今後取り組むべき課題に対応した各項目の基本方針と、具体的な管理運営の施策の方向性を定めています。

今後取り組むべき課題

❶自然環境・野生生物の保護・保全・管理

自然環境に配慮した社会インフラ整備事業の遂行、外来生物の影響に対するリスク管理、国道２８９号八十里越の道路工事などの大規模開発への対応など

❷学術調査研究・教育・文化活動

科学的知見や資料の収集・保存・活用、地域の特色ある文化・教育活動の推進など

❸持続可能な地域の社会経済的な発展

基盤的産業である農業の持続可能な振興・発展、森林資源の活用、エコツーリズムの推進など

❹地域の生活・文化の維持と継承

過疎・高齢化により急速に消失しつつある只見の生活や文化、地域知を継承し、時代の変化に即応した形で伝統的な資源利用を発展させる組織・団体と人材の育成や確保

「第二期只見ユネスコエコパーク管理運営計画書」は、ただみ・ブナと川のミュージアムで冊子を配布しており、只見ユネスコエコパークホームページで公開予定です。詳細はそちらをご覧ください。只見ユネスコエコパークの活動には町民の皆様のご理解とご協力が欠かせません。第二期管理運営計画をよろしくお願いいたします。



◀小学生が行うビオトープでの生きもの調査



◀小林早乙女踊りや梁取太々神楽などの伝統芸能